


環境経営レポート 2022

(対象期間：2022年4月～2023年3月)

発行日：2023年6月30日


 株式会社 ジオレ・ジャパン



©環境省

エコアクション21

認証番号0013444

 資源に変えるチカラ、自然に還すチカラ。
DINS 大栄環境グループ

目次

1 組織概要 1

2 許認可取得状況 3

3 事業紹介 5

4 EA21組織図 15

5 環境経営方針 16

6 環境関連法規の遵守状況 17

7 環境経営目標とその実績 18

8 環境経営活動計画の取組み
結果とその評価 22

9 ジオレ・ジャパンの取組み 32

10 大栄環境グループの取組み 36

11 代表者による全体評価と
見直し結果 39

会社概要

事業所名 株式会社 ジオレ・ジャパン

所在地 兵庫県尼崎市東浜町1-1

連絡先 TEL 06-6411-3690
FAX 06-6411-3225

創立年月日 平成15年10月1日

代表者 代表取締役 柴垣 雄一

資本金 1億円

従業員数 52名（男性：40名 女性：12名）

環境管理責任者 島原 直樹

EA事務局

連城 博記
中西 智愛

対象事業所

- 本社工場
- 末広工場

事業内容

- 汚染土壌の浄化及び浄化土の販売
- 土壌汚染に関する総合コンサルティング
- 汚染土壌に係る工事
- 低濃度PCB廃油の無害化处理
- 産業廃棄物の収集運搬業

2023年3月31日現在

汚染土壌搬入量の推移

項目	単位	2020年	2021年	2022年
汚染土壌 搬入量	t	247,397	333,851	343,252
浄化土 販売量	t	127,397	127,113	157,708
売上高	百万円	2,625	3,361	3,716
従業員数 <small>※ 各年3月31日時点</small>	人	45	49	52

2.許認可取得状況

取得許認可

本社工場

- 汚染土壌処理業許可
（浄化等処理施設〈浄化〉〈不溶化〉、分別等処理施設）
許可番号：第13110010001号
- 指定調査機関 環2004-5-2002（土壌汚染対策法）
- 建設業 国土交通大臣 許可（特-3）第23536号
- 低濃度PCB無害化処理大臣認定 2013年 第5号
- 産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業（詳細は次頁）

汚染土壌施設の種類		処理能力	
1	浄化等処理施設（浄化（抽出-洗浄処理））	17t/h	408t/d(24h)
2	浄化等処理施設（浄化（抽出-化学脱着））	160t/h	1280t/d(8h)
3	浄化等処理施設（浄化（分解-熱分解））	4.6t/h	110t/d(24h)
4	浄化等処理施設（浄化（抽出-磁力選別））	105t/h	2,520t/d(24h)
5	分別等処理施設（不溶化）	105t/h	2,520t/d(24h)
6	分別等処理施設（異物除去）	105t/h	2,520t/d(24h)
7	分別等処理施設（含水率調整）	105t/h	2,520t/d(24h)

末広工場

- 汚染土壌処理業許可（分別等処理施設）
許可番号：第13100010006号

汚染土壌施設の種類		処理能力	
1	分別等処理施設（異物除去）	240t/h	1,920t/d(8h)
2	分別等処理施設（含水率調整）	240t/h	1,920t/d(8h)

2.許認可取得状況

取得許認可

・産業廃棄物収集運搬業

※活動期間中（2022年4月～2023年3月末）
収集運搬の実績はありませんでした。

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類																
					燃え殻	汚泥	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属くず	動植物性残さ	銲さい	ばいじん	
尼崎市	第7112-212355号	令和2年6月29日	令和7年6月28日	有	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
兵庫県	第02805212355号	令和1年12月9日	令和6年12月8日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
大阪府	第02700212355号	令和1年12月17日	令和6年12月16日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
三重県	第02400212355号	令和2年2月25日	令和7年2月24日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
和歌山県	第03000212355号	令和2年2月19日	令和7年2月18日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○

・特別管理産業廃棄物収集運搬業

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類				
					燃え殻	汚泥	廃油	銲さい	ばいじん
尼崎市	第7162-212355号	令和2年6月29日	令和7年6月28日	有	○	○	○	○	○

●運搬車両

ダンプトラック：2台
キャブオーバー：1台

●積替保管施設

産廃	特管
面積	面積
：19.52㎡	36.69㎡
保管上限量	保管上限量
：23.42㎡	110.07㎡

汚染土壌問題のトータルソリューション

土壌汚染に関する調査・コンサルティング事業（調査・分析・評価・対策のご提案）、浄化事業、浄化土販売事業により、お客様のニーズに対応した最適なソリューションを提供しています。

1 コンサルティング

調査計画

現地調査

分析

評価

対策実施計画

- ・「GIS（地理情報システム）を用いた地歴調査システム」を活用した迅速な地歴調査
- ・環境保全や土木技術に関する知識経験を有する技術者による最適ソリューションの提供



2 土壌処理

原位置対策

原位置封じ込め/原位置浄化

原位置浄化工法

◎バイオレメディエーション ◎科学的処理（酸化・還元分解等）
◎ガス吸引、揚水曝気 ◎空気注入 ◎原位置土壌攪拌（フェントン法 等）

敷地外対策

独自開発の浄化方法 / 大規模なストックヤード

分別

埋立処理 / セメント原料化



3 再利用

浄化土を埋戻し材や地盤改良材等として販売し、土壌の再利用を推進

3.事業紹介

汚染土壌処理 施設レイアウト



- ① 事務所棟
- ② 計量設備
- ③ 前処理棟
- ④ 熱処理設備
- ⑤ 洗浄処理棟
- ⑥ 浄化土置場
- ⑦ 第二処理棟
- ⑧ 専用バス

3.事業紹介

汚染土壌処理 処理フロー

汚染土壌



砂質系

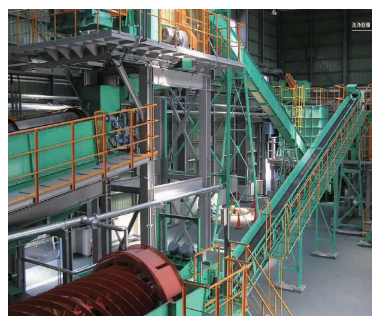


粘質系

浄化



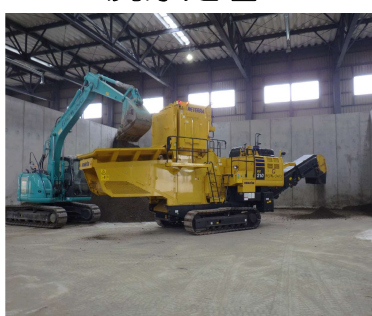
・熱分解処理



・洗浄処理



・乾式磁力選別



・化学脱着

分別



・不溶化処理



・異物除去
・含水率調整

再資源化



浄化済み土壌 (全量販売)

適正処理



埋立処理



セメント原料化

3.事業紹介

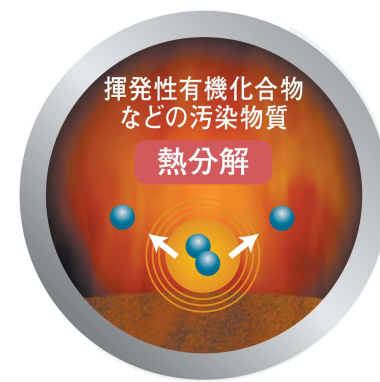
汚染土壌処理 熱処理設備

高温熱処理することで、ほとんどの汚染土壌を浄化できます。

汚染物質はロータリーキルンにて約1,000℃の高温で熱処理されます。この工程で分離された重金属類は排ガス処理設備にて確実に回収し、廃棄物として処分します。また、揮発性有機化合物等は熱分解されます。



ロータリーキルン・内部の汚染土壌の様子



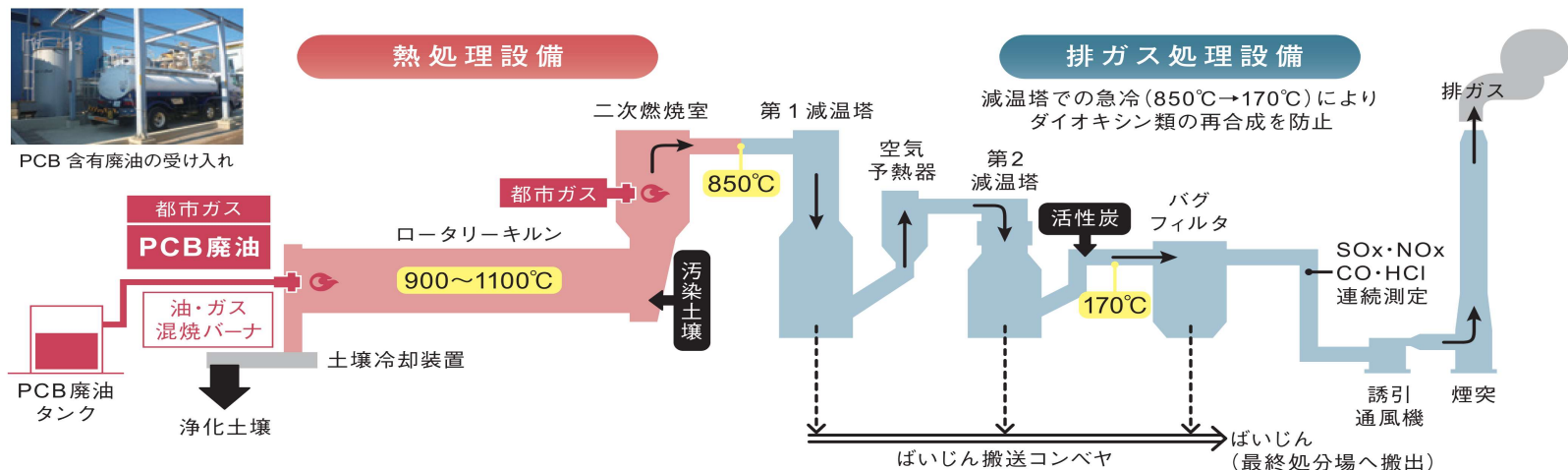
3.事業紹介

汚染土壌及びPCB廃油処理 PCB無害化

高温熱処理設備により、
PCB汚染土壌を浄化
します。

PCB 無害化のしくみ

二次燃焼室において、燃焼温度 850℃以上、排ガス滞留時間 2 秒以上を確保し、PCB を確実に分解します。

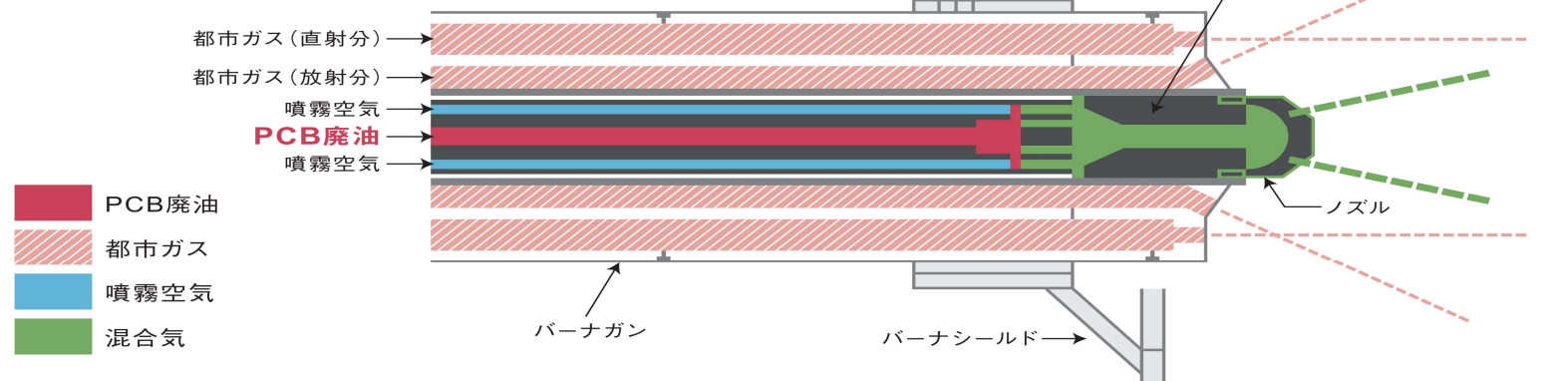


さらに低濃度PCB廃油
の無害化も同時に実施
します。

PCB 廃油の処理方法

ロータリーキルンの油・ガス混焼バーナにより、
PCB 廃油を直接焼却します。

油・ガス混焼バーナ先端図



3.事業紹介

汚染土壌処理 洗浄処理

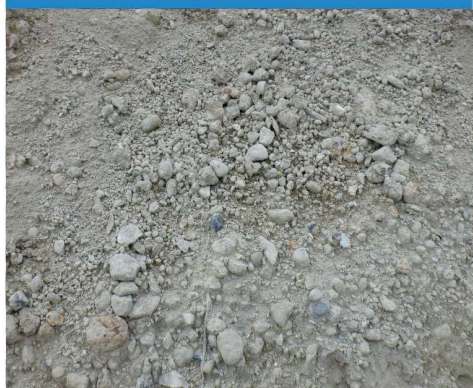
摩擦や水流によりレキや砂の表面から汚染物質をはぎ取ります。

磨鉱機や土壌分級機を用いた多段階の水洗浄により、汚染物質を細粒土とともにレキや砂粒から確実に取り去ります。

洗浄に用いた水は水処理を行い洗浄施設にて循環利用します。



洗浄前



SEMによる
(電子顕微鏡)
洗浄効果
確認

汚染物質が存在する
細粒分を確実に除去



洗浄後



3.事業紹介

汚染土壌処理

DME処理（乾式磁力選別処理）

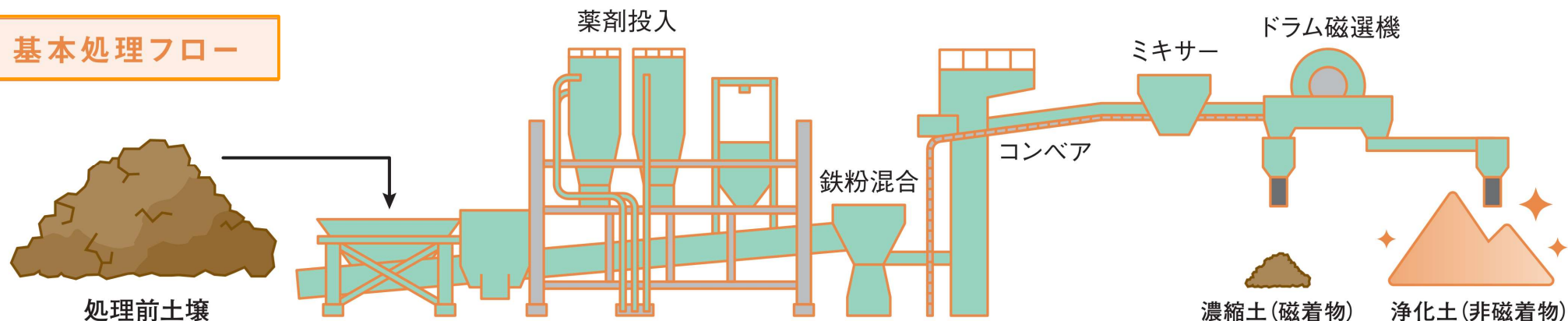
自然的原因の汚染土壌等を水を用いずに磁力選別にて浄化します。

鉄粉に砒素や鉛などの重金属類を吸着させる性質があることを利用し、重金属含有土壌に鉄粉を混合して重金属類を吸着させた後、磁力を用いて鉄粉および重金属イオン等を分離除去します。

DME工法の最大の特徴は、処理プロセスにおいて水をほとんど使用しないため、排水処理が不要となることです。



基本処理フロー



3.事業紹介

汚染土壌処理 その他の処理

・埋立処理

関西圏を中心に4カ所の汚染土壌処理業許可を有する大栄環境グループの最終処分場にて埋立処理が可能です。

低濃度（第二溶出量基準以下）の汚染土壌処理に有効です。廃棄物の埋立処理で培ったノウハウを生かし、安心と安全を提案します。

・不溶化処理

薬剤などにより、第二種特定有害物質の汚染土壌からの溶出量を低減する処理方法です。処理後の土壌は再処理汚染土壌処理施設へ搬出しなければなりません。

・化学脱着

汚染土壌に薬剤（生石灰等）を混合し、水との水和熱で土壌温度を上昇させ、第一種特定有害物質を土壌から揮発させて除去する方法です。



3.事業紹介

汚染土壌処理 その他の処理

・分別等処理

再処理汚染土壌処理施設への受け入れが可能となるよう異物除去等の処理を行います。

◎異物除去

岩、コンクリートガラ等の異物を除去します。

◎含水率調整

中性固化材や生石灰等を混合し、汚染土壌の含水率を調整します。

・セメント原料化

セメントの主原料は石灰石ですが、それ以外の成分として粘土や石炭灰等も相当量使用されています。セメント原料としての基準（塩分・アルカリ量等）を満たした低濃度の汚染土壌も積極的に活用されています。



専用岸壁からの船積み状況

浄化土の活用

・浄化土の品質管理

浄化土は汚染土壌を浄化プラントにて適正処理し、土壌汚染対策法および関連ガイドラインに基づいた頻度や項目で試料を採取し、第三者の計量証明機関において公定法により、汚染のないことを確認しています。



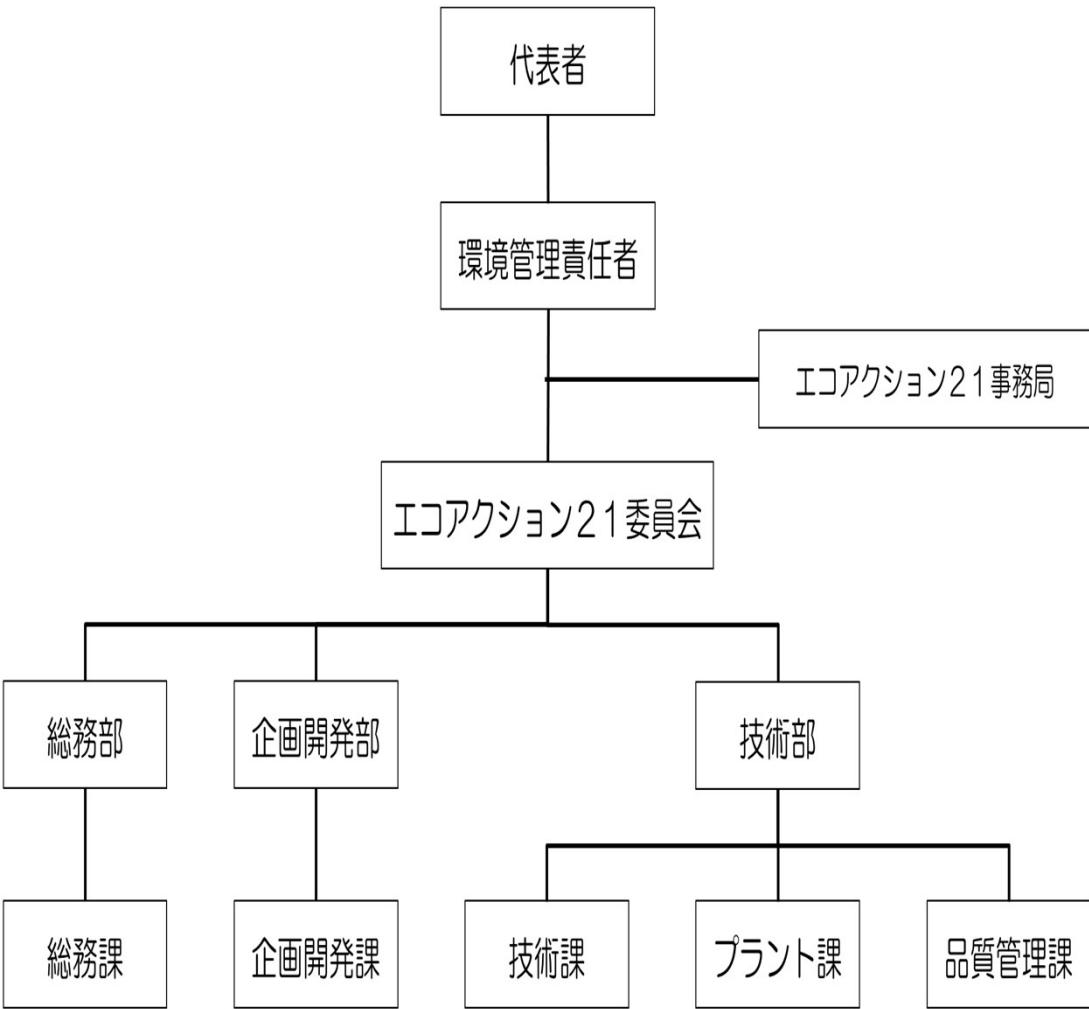
浄化土のリサイクル品

浄化土は建設工事の埋め戻し材料をはじめ、地中配管の周囲の埋め戻し材、芝の目砂、敷き碎石、アスファルト骨材、地盤改良材、路盤材など多くの用途にご利用いただいております。



配管まわりの埋戻し

EA21組織図



役割・責任・権限	
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認・評価 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育・訓練を実施、記録の作成 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

※ 営業は、総務課に含まれます。

ジオレ・ジャパン 環境経営方針

1. 環境関連法規、地域の条例・協定を遵守し、地域社会と共に事業を展開します。
2. 汚染土壌や廃棄物の適正処理・再資源化により、循環型社会の構築に努めます。
3. 電気、化石燃料の有効活用や社有車・重機類の経済的運転によりCO₂の削減を推進します。
4. 水資源の節約、汚水の適正処理及び漏洩防止により、環境の保全に努めます。
5. 汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理に努めます。
6. 美化活動や場内緑化を推進し、緑豊かで清潔な事業所づくりに取り組めます。
7. 環境経営方針は、全従業員に周知のうえ社内外に公開し、環境経営を継続的に改善してゆきます。

2020年 11月 1日
代表取締役 柴垣雄一

法令遵守状況

各業務に関係する法令の遵守事項を各部署にてピックアップし、毎月の月次チェック表を基に実施漏れがないよう心掛けています。

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

法律の名称	対象となる事項
土壌汚染対策法	<ul style="list-style-type: none"> 処理後土壌・地下水・排水・排ガス分析 汚染土壌処理業に係る各種変更・届出・報告等
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス分析、一般粉じん発生施設設置・廃止届等
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水分析
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ばいじん・排ガス分析(熱処理施設に限る) 低濃度PCB大臣認定に基づく各種測定・変更・届出等
ダイオキシン類対策特別措置法	<ul style="list-style-type: none"> 処理後物・ばいじん・排ガス分析(熱処理施設に限る) 法令に係る届出等
PRTR法	<ul style="list-style-type: none"> 第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出
PCB特措法	<ul style="list-style-type: none"> 低濃度PCB廃棄物に係る保管・処分状況の報告
省エネルギー法	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー法に係る各種報告・変更・届出等

法令等順守事項チェック表

2023 年 3 月 度

技術部品質管理課

項目	実施日	法規制値との整合性	実施者
地下水・雨水排水分析（本社工場・東広工場）（土対法）	3/16	問題なし	久田
熱処理施設排ガス水銀測定（排出基準を超過した場合の3回測定）（大防法）	-	超過なし	久田
PCB関係情報提供（測定結果のHPでの公開等）（PCB無害化認定）	-	決定。4月に排ガス測定結果と処理記録を以て改善記録結果も更新予定。	久田
PCB油タンク試料採取（熱処理施設運転中に限る）・PCB濃度分析（分析消耗品購入・分析後廃油保管、回収率確認）（PCB無害化認定）	随時	問題なし	久田
PCB油受入れ種の投分濃度管理（フロント課の受入票等による）（PCB無害化認定）	随時	問題なし	久田
光化学スモッグ緊急時対策前段階措置報告書（兵庫県（尼崎市））	-	対応なし	久田
分析（浄化確認、受入土壌）	毎日	超過なし	久田
洗浄水・排水水質分析確認	休日出発日	超過なし	久田
排水クーキ分析	3/28	社内用データ	久田

全項目遵守

前月末実施項目の対応

環境管理責任者	EA事務局	技術部長	技術部次長

ジオレ総管－様式第14号(1)

各部署の担当者が、毎月実施すべき遵守事項を確認し、いつ・誰が実施したかを記録。

問題があれば、改善し、法令遵守を徹底できる体制を構築しています。

7.環境経営目標とその実績

主な環境負荷の実績

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,982,338	5,879,247	6,637,455
廃棄物排出量	トン	1,067	992	1,159
一般廃棄物排出量	トン	2	3	3
産業廃棄物排出量	トン	1,065	989	1,156
水使用量	m ³	32,151	38,045	37,081

※二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh 関西電力2019年度の調整後係数

※二酸化炭素総排出量は、活動目標に挙げていない低濃度PCB含有廃油等を含む。

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準値 (基準年)	2022年		評価	2023年	2024年
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 ※本社工場・末広工場合算	kg-CO ₂	1,003,799	1,114,217	1,036,316		1,025,953	1,015,590
	基準年度比	2021年	111%	93%	○	99%	98%
都市ガスによる二酸化炭素削減 ※22年より都市ガス切替の為、目標設定なし	kg-CO ₂	187,944	-	3,064,792		3,034,144	3,003,496
	基準年度比	2021年	-	-		99%	98%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	7,395	8,209	7,523		7,447	7,372
	基準年度比	2021年	111%	92%	○	99%	98%
重機燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	789,715	876,583	1,256,501		1,243,936	1,231,371
	基準年度比	2021年	111%	143%	×	99%	98%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	1,981,457	1,990,800	5,357,609		2,269,889	2,246,961
一般廃棄物の削減	kg	2,713	3,011	3,025		2,994	2,964
	基準年度比	2021年	111%	100%	○	99%	98%
産業廃棄物の削減	kg	989,320	1,098,145	1,155,890		1,144,331	1,132,772
	基準年度比	2021年	111%	105%	○	99%	98%
低濃度PCB廃油の処理	ℓ	384	-	435		-	-
	基準年度比	2021年	-	-		-	-
水使用量の削減 ※上水・工水合算	m ³	38,045	42,230	37,081		36,710	36,339
	基準年度比	2021年	111%	88%	○	99%	98%

※売上前年比111%の見込みの為、目標値は基準年の+11%以内に抑えるよう設定。

評価内容

2022年度は売上が前年比111%、2020年度と比較すると142%となった為、普段実施が無かった夜間による処理作業が発生、またそれに伴い作業員の増加等もあったが、毎月の委員会での課題を共有し解決策を模索していくことで、全員の活動意識の向上に繋げることができた。

土壌取扱量増加により、本社工場と末広工場との土壌の横持運搬が増加したことから、軽油の使用量が前年よりも大きく上がった。

末広工場の事業拡大計画が進行中であるが、当面は同様の事態が起きる可能性もあることから、対策を練っていく必要がある。

環境経営目標とその実績一覧（1）

目標項目	取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標			
					2023年度	2024年度	2025年度	
二酸化炭素排出量の削減	使用電力量の削減	プラント設備における電気・化石燃料の有効活用によりを削減する。	プラント設備におけるCO ₂ 排出量削減の取組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 都市ガス使用量の把握。 PCB廃油処理に伴う熱源利用。 CO₂排出量の削減。 	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	事務所内の節電により、CO ₂ を削減する。	事務所内の節電を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 節電推進方策の展開 節電パトロールの実施。 節電啓発活動 冷蔵庫内整理整頓。 	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続	
	重機稼働時の低燃費運転を実施し、燃料消費量及びCO ₂ の排出量を削減する。	平均無操作アイドリング割合を23.9%以下に抑制する。	平均無操作アイドリング割合 年間平均24.6% ※12ヶ月中8ヶ月は達成	△	基準年より1.5%削減する	基準年より2%削減する	基準年より2.5%削減する	
	社有車・重機の燃料使用量の削減	エコカー（アード、リーフ）の使用率の向上。	エコカー利用率 43% 月次走行距離 836km	○	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比1% エコカー年間走行距+300km	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比2% エコカー年間走行距+300km	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比3% エコカー年間走行距+300km	

7.環境経営目標とその実績

環境経営目標とその実績一覧 (2)

目標項目	取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
					2023年度	2024年度	2025年度
総排水量の削減	工業用水使用量の削減	水資源の節約、汚水の適正処理及び漏洩防止により、環境の保全に努める。	排水受水送水量(汚水)の管理と水処理、脱水設備を活用し汚水の再利用を行い、水資源を節約する。 工業用水用量 34,503,000 ℓ	○	工業用水使用量 基準年比-1%	工業用水使用量 基準年比-1.5%	工業用水使用量 基準年比-2%
	上水使用量の削減	節水の喚起により上水使用量の削減する。	従事者1人あたりの上水使用量 前年度比 -0.5% 本社： 0.121m ³ /人・日 末広： 0.1961m ³ /人・日 以下を達成する。 従事者1人あたりの上水使用量 本社：0.0963m ³ /人・日 末広：0.1810m ³ /人・日		○	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比-1%	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比-1.5%
化学物質使用量	化学物質使用量の把握	汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理に努める。	汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量の把握。 運転計画書に則り、必要以上に化学物質の使用を行わないよう調整・管理を実施した。	○	適正使用量の遵守。日常的に設備配管等の維持管理を行い、化学物質を漏洩させない。	左記を継続	左記を継続
廃棄物排出量の抑制	産業廃棄物処理の適正管理	排出する産業廃棄物の適正処理を確認する。	施策を確実に実施し、法令違反を防止する事で産業廃棄物の適正管理を行う。 ・場内パトロールの実施。 ・処理委託契約の締結確認。 ・マニフェスト伝票の適正管理。 ・現地確認の実施。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	事業系一般廃棄物(排出量)を削減	ゴミの分別等の推進	1カ月当たりのゴミの排出量 185kg以下を達成する。 1ヶ月当たりのゴミの排出量 平均175kg	○	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比1%削減	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比2%削減	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比3%削減

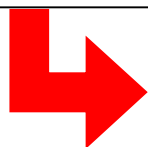
環境経営目標とその実績一覧 (3)

目標項目	取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標			
					2023年度	2024年度	2025年度	
汚染土壌の浄化	浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査の頻度が適正であることを確認する。	汚染土壌の適正な浄化処理を推進することにより、土壌環境改善及び循環型社会の構築に努める。	浄化確認頻度 180t/回以下	全ロット 180t/回以下	○	180t/回以下	180t/回以下	180t/回以下
	浄化確認調査の結果が基準値を超過した件数を把握し、当該土壌が適正に再処理されたことを確認する。	汚染土壌の適正な浄化処理を推進することにより、土壌環境改善及び循環型社会の構築に努める。	基準超過回数 0	基準超過回数 0 再処理に該当する土壌の発生はなし。	○	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。
環境活動の実施	花壇整備	季節毎の花の育成	<ul style="list-style-type: none"> 春の花植付・開花 夏の花植付・開花 来季春の花種まき 	本社屋前花壇及び自転車置き場前花壇 夏の花： ひまわりとマリーゴールド 春の花： ノースポール を開花。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	美化活動の実施	場内の美化活動や場内緑化を推進し、緑豊かで清潔な事務所づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 1回/月以上の美化清掃実施。 課員全員の緑の活動実施。 	毎月1回場内清掃を実施し、プラント課員班毎での緑の活動を実施。	○	左記を継続 数値目標の設定はなし。ただし、継続的に環境活動を実施する。各個人の環境意識の向上が目的。	左記を継続	左記を継続

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 プラント 電気・LNG使用量調査

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
都市ガス使用量	129,678m ³	0m ³	52,867m ³	11m ³	170,286m ³	126,522m ³	66,441m ³	206,114m ³	175,617m ³	208,686m ³	118,521m ³	164,142m ³	1,418,885m ³
PCB廃油処理量	68.07kL	0.00kL	52.14kL	6.75kL	70.40kL	61.87kL	56.60kL	27.16kL	35.04kL	6.89kL	29.51kL	68.75kL	483.18kL
PCB廃油 GJ換算	2,675.36GJ	0.00GJ	2,049.10GJ	265.41GJ	2,766.90GJ	2,431.67GJ	2,224.55GJ	1,067.61GJ	1,377.14GJ	270.88GJ	1,159.71GJ	2,702.04GJ	18,990.36GJ
都市ガス削減量	59,717m ³	0m ³	45,739m ³	5,924m ³	61,761m ³	54,278m ³	49,655m ³	23,831m ³	30,740m ³	6,046m ³	25,886m ³	60,313m ³	423,891m ³
エネルギー起源 CO ₂ 削減量	133.17 t	0.00 t	102.00 t	13.21 t	137.73 t	121.04 t	110.73 t	53.14 t	68.55 t	13.48 t	57.73 t	134.50 t	945.28 t



CO₂削減量 前年747.14t
前年比126.5%UP!!

担当者のコメント

PCB廃油処理で生じる熱を利用し、都市ガス（化石燃料）の使用量を削減することで、エネルギー起源CO₂排出を削減する。

上記の差により、化石燃料の削減及びエネルギー起源のCO₂削減量を求めた結果945.28 tのCO₂が削減された。引き続きPCB廃油処理で生じる熱を利用し、化石燃料の削減及びエネルギー起源のCO₂削減を行う。

実施内容

評価

①都市ガスの使用量を把握。

○

②PCB廃油処理で生じる熱を利用し、都市ガス（化石燃料）の使用量を削減しエネルギー起源CO₂排出を削減する。

○

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 事務所内の節電を推進

実施内容	評価
①節電パトロール(エアコンの切り忘れがないかなど)を実施する。	○
②節電の推進啓発活動を行う。	○
③冷蔵庫の中が整理整頓されて清潔に保たれているか、長期間放置されているものがないかのチェックして、問題があれば、対処するとともに、再発防止策を講じる。	○

担当者のコメント

節電パトロールにより、電気の消し忘れなど無駄な電力消費を削減する取り組みやステッカーなどで節電を啓発する取り組みを行った。

また月一の節電パトロールでは、稀にある消し忘れを見つけるのは難しいため、抜き打ちで見回りも行い、問題あればその都度、対応している。

定期的に冷蔵庫内の放置物を確認して、冷蔵庫内を清潔に保つとともに、結果を周知して従業員の意識向上をはかった。

今後については、
 (冷蔵庫チェック)
 引き続き冷蔵庫内を清潔に保つとともに、結果を周知して従業員の意識向上をはかる。

(節電パトロール)
 引き続き節電パトロールを実施して、節電の啓発及び電気の消し忘れのチェックをしていくとともに、ポスターなどで啓発活動を行っていく。

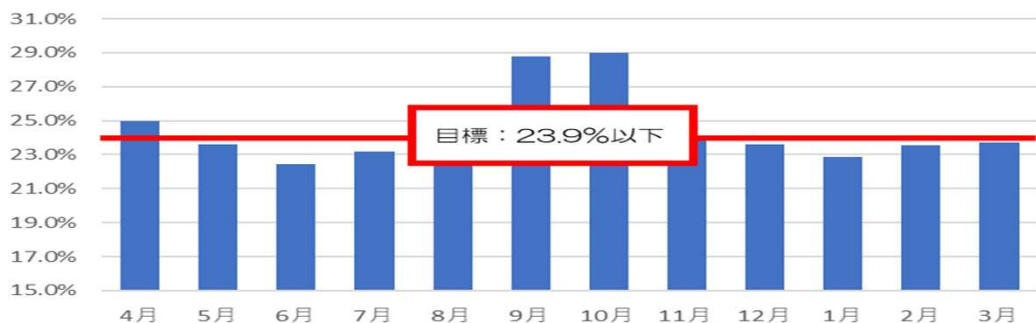


8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 重機類の燃料使用量削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
総稼働時間	2,505h	2,281h	3,118h	3,421h	2,990h	3,272h	3,186h	2,992h	3,039h	2,530h	2,418h	2,638h	34,390h
総無操作時間	626h	539h	700h	793h	747h	941h	924h	716h	717h	579h	569h	624h	8,475h
平均無操作 アイドルング	25.0%	23.6%	22.5%	23.2%	25.0%	28.8%	29.0%	23.9%	23.6%	22.9%	23.5%	23.7%	24.6%

平均無操作アイドルング



実施内容

評価

①メーカーから入手する資料を基に、重機の稼働状況を確認し、無駄なアイドルングを削減する。	○
②無操作時間の多い重機をピックアップし、当該重機のオペレーターにヒアリングを行い、オペレーターの意識向上及び無操作時間の削減に努める。	○
③場内パトロールにて、各重機の運転操作状況を確認し、必要に応じて低燃費運転に関する指導を行う。	○
④定例会議や打ち合わせ時にE A 2 1の活動に関する周知を行う。	○
⑤取り組み結果を掲示し、オペレーターの意識向上を図る。	○

担当者のコメント

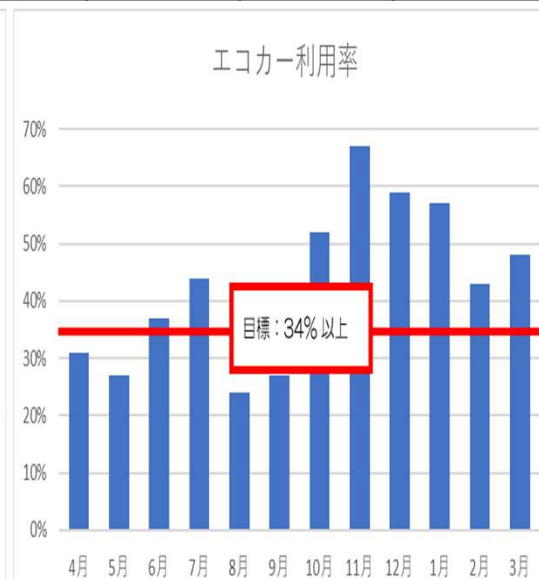
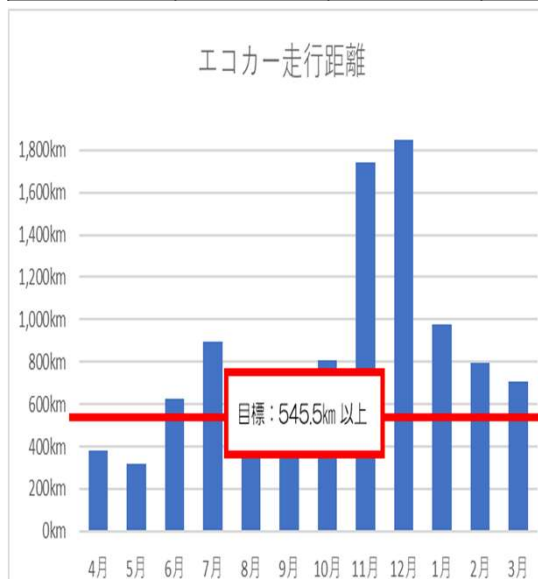
メーカーからの稼働データを基に、重機の稼働状況を確認し、無操作割合の大きい重機については個別に指導を実施した。場内パトロール時に各重機の運転状況を確認し、不適切な使用の重機を発見した場合は、その都度指導を実施した。定例の安全会議（株津川主催）や日々の打ち合わせの中で、無操作運転に関する周知を行った。毎月の取り組み結果を株津川へ開示し、各重機オペレーターの意識向上に努めた。尚、夏季期間は熱中症対策による冷房の稼働を行った事で、未達となる月があったが、安全上、止む無しの為、来期は夏季期間を考慮した目標値の設定が必要と考えられる。

今後は当社社員が実際に重機の模範操作（月に1日8時間程度）を示し、他オペレーターとの比較を行う事で、無操作時間削減に向けた改善の余地の有無等を検討する。毎月の取組結果を基に、重機オペレーターへ向けた無操作時間削減等に関するディスカッション（又は説明会等）を行い、各オペレーターの意識向上に努める。

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 社有車の経済的運転

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
エコカー走行距離	380km	319km	623km	893km	426km	515km	806km	1746km	1847km	977km	792km	707km	836km
エコカー利用率	31%	27%	37%	44%	24%	27%	52%	67%	59%	57%	43%	48%	43%



担当者のコメント

エコカー利用の推進を加速するため、目標を単純化したので、誰かが分かりやすく、また施策も立てやすかった。前半に目標未達成が続いたが、担当者が遠方利用している者を調べあげ、うまく根回ししたこともあって、遠方利用者にエコカーを積極的に使用してもらう事ができた。

遠方利用は、不定期におこることなので、安定した数値を残すことはできないが、利用の際はエコカー利用の声掛けをし、取りこぼしはないように、今後とも取り組みを継続していく。

実施内容	評価
①各車両のガソリンの使用量(ℓ)を集計する。	○
②毎月の平均燃費(距離/ℓ)を見える化。	○
③エコ運転啓発活動を行う。	○
④エコ車(アード、リーフ)利用率の見える化する。	○

10月度社有車利用状況 中間報告

エコアクション21

10月15日時点で、エコカー利用距離が312kmです。月間目標545km達成まで、あと233kmの走行が必要です。

安全運転など遠方利用は、走行距離や利用率UPに繋がります。これまでのADバン、エステイマ、ハイゼットの利用がアードやリーフで代替可能であれば、ご利用お願いします！

チャンス！エコカー！！

ご協力の程、宜しくお願い致します！！

ADバン	エステイマ	ハイゼット	アード	リーフ	合計
153	69	167	123	188	701

エコカー利用距離 312km

アード	ハイゼット	エステイマ	ADバン
34%	17%	18%	31%

月間目標
エコカー走行距離 545km
エコカー利用率 34%

1月度エコカー利用推進活動の結果について

エコアクション21

1月も目標を達成いたしました！！

エコカー利用率が高く、長距離利用も増えましたが、目標を上回る事ができました。皆さまのご協力のおかげです。ありがとうございます！！

2月の目標はエコカーの利用率を更に高めたいです！！

車種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2022年1月 利用率
アード	135	71	220	503	182	186	242	104	149	663	663	663	43%
ハイゼット	245	248	403	390	244	229	564	683	378	374			17%
エステイマ	340	319	623	893	426	515	806	1746	1847	977			18%
ADバン	31	27	37	44	24	27	52	67	59	57			31%
合計	751	665	1263	1830	1089	1383	2205	3250	3637	2497			43%

2022年1月 利用率 43%

2022年1月 目標 43%

2022年1月 実績 43%

2022年1月 目標 43%

2022年1月 実績 43%

2022年1月 目標 43%

2022年1月 実績 43%

2022年1月 目標 43%

2022年1月 実績 43%

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

工業用水使用量の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
工業用水 使用量	3,520,000 ℓ	1,082,000 ℓ	2,583,000 ℓ	949,000 ℓ	3,667,000 ℓ	3,939,000 ℓ	2,268,000 ℓ	4,175,000 ℓ	3,997,000 ℓ	2,940,000 ℓ	2,819,000 ℓ	2,564,000 ℓ	34,503,000 ℓ
排水受水 送水量 (汚水量)	71,228m ³	43,455m ³	68,124m ³	32,180m ³	43,275m ³	46,045m ³	29,931m ³	30,928m ³	24,099m ³	44,087m ³	35,364m ³	47,820m ³	516,536m ³
脱水ケーキ 量	5,301.60 t	3,171.66 t	3,912.01 t	1,907.83 t	1,864.42 t	2,503.00 t	1,738.06 t	1,426.00 t	1,794.27 t	1,632.52 t	1,954.64 t	1,493.21 t	28,699.22 t
再処理水 使用量	68,072m ³	41,567m ³	65,795m ³	31,044m ³	42,165m ³	44,555m ³	28,896m ³	30,079m ³	23,031m ³	43,115m ³	34,201m ³	46,931m ³	499,453m ³

工業用水使用量 前年35,699,000 ℓ
前年比96.6%にDOWN!!

担当者のコメント

洗浄処理後水、雨水、タイヤ洗浄水等の汚水を水処理し、再利用すると同時に排水受水送水量(汚水)の管理を行った。水処理設備及び脱水設備を使用し、汚水内の不純物を取り除き、洗浄用水として再利用を行うことで、工業用水の使用量を抑えた。

また、設備・配管類の管理により、漏洩防止、環境保全に努めた

引き続き、泥水処理をし、再利用する事で、水資源の節約に貢献する。

実施内容	評価
①洗浄処理後水、雨水、タイヤ洗浄水等の汚水を水処理し、再利用。排水受水送水量(汚水)の管理。	○
②水処理設備及び脱水設備を使用し、汚水内の不純物を取り除き、洗浄用水として再利用。	○
③設備、配管類の管理により、漏洩防止、環境保全に努める。	○

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

上水使用量の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
上水使用量 (本社)	—	0.0862m ³ /人・日	—	0.0986m ³ /人・日	—	0.1214m ³ /人・日	—	0.1000m ³ /人・日	—	0.0785m ³ /人・日	—	0.0932m ³ /人・日	0.0963m ³ /人・日
上水使用量 (末広)	0.2816m ³ /人・日	—	0.1917m ³ /人・日	—	0.1322m ³ /人・日	—	0.1453m ³ /人・日	—	0.1682m ³ /人・日	—	0.1671m ³ /人・日	—	0.1810m ³ /人・日

上水使用量 (本社)



上水使用量 (末広)



実施内容	評価
①上水使用量の確認・記録。	○

担当者のコメント

上水使用量の把握を継続し、本社工場では花壇の水やりの時期に使用量が増加傾向にあることが分かった。また末広工場では棧橋改修工事にて外部業者が定常的に作業するようになってから上水使用量が増加した。(雨水タンクは導入・設置・維持管理コストに見合う効果があるか不透明。)

引き続き、上水使用量の把握を継続、上水の適正利用を推進する。定常的に作業している外部業者の人数を定期的に把握し、目標達成状況を確認する。

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

化学物質使用量の把握

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
塩化鉄 使用量	37.755 t	0.000 t	21.519 t	6.674 t	50.433 t	43.597 t	24.547 t	58.643 t	42.933 t	45.688 t	20.724 t	51.654 t	404.167 t

実施内容	評価
①焼成設備にて使用している、薬剤が運転計画指示書通りに添加されているか、余剰添加を行っていないかを管理する。	○
②薬剤タンク・配管等から漏れがないかを日常点検により、確認する。	○

担当者のコメント
汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理ができた。 次年度も引き続き使用量の把握、保管方法の確認、設備配管の点検により、化学物質の適正な使用及び管理に努める。

産業廃棄物処理の適正管理

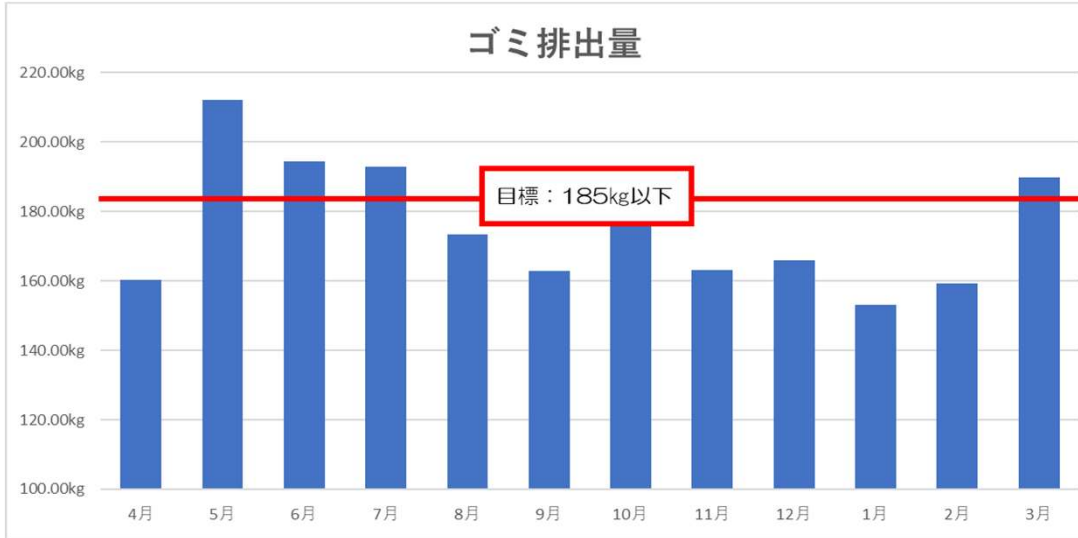
実施内容	評価
①場内パトロールを実施し、産業廃棄物の保管状況を確認し、適正な保管状況を継続させる。	○
②処理委託契約の締結状況を確認する。	○
③産業廃棄物を排出する際は、産業廃棄物管理票を確実に発行し、その後の返却状況までの管理を適正に行う。	○
④排出先処理施設の現地確認を実施する。	○

担当者のコメント
場内パトロール時に、産業廃棄物の保管状況を確認し、不適切な場合は早急に是正を行った。 産業廃棄物の処理委託契約の締結状況を確認し、契約内容や契約期限等に不備が無いかのチェックを行った。 産業廃棄物排出時の管理票の発行及び発行後の返却状況を確認し、不適切な運用の防止に努めた。 排出先の現地確認を実施し、当社から排出した産業廃棄物が、適正に処理が行われている事を確認した。

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

事業系一般廃棄物(排出量)の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
ゴミ排出量	160.25kg	212.02kg	194.45kg	192.83kg	173.50kg	162.98kg	177.15kg	163.04kg	165.89kg	152.99kg	159.21kg	189.91kg	175.35kg
コピー用紙使用量(A4)	60冊	20冊	40冊	40冊	40冊	35冊	35冊	40冊	40冊	30冊	35冊	30冊	445冊
コピー用紙使用量(A3)	6冊	3冊	3冊	3冊	6冊	3冊	6冊	0冊	6冊	3冊	3冊	3冊	45冊



実施内容	評価
①コピー用紙の使用削減の推進。	○
②毎月のコピー用紙の使用量を記録する。	○
③ゴミの分別を徹底する。	○
④ゴミの排出量の記録する。	○

担当者のコメント

今期からは、排出記録だけでなく、異常値を把握できるように、原単位も計算・記録している。
 おかしい物が捨てられないように、日々のゴミ排出記録についても確認し、異常なゴミ量が出ている場合は、確認し、妥当な理由でなければ再発防止に備えた。
 また、コピー用紙の使用量の削減については、頭打ちだが、啓発活動を行い、不要な紙出力を抑えるよう周知している。
 今後はトイレットペーパーやペーパータオルの使用枚数削減や迷惑FAXの削減、コピー用紙の買い方自体の工夫なども視野に入れて活動する。

2022年度実績
 アルミ缶 10.45kg
 シュレッダーゴミ 910kg
 をリサイクル資源として回収することができた。

EA21 (1月度) ごみ排出量について

取り組み結果

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
392.83	173.45	162.84	177.15	163.04	165.89	152.99

達成率: ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

コメント: 1月度 目標達成!! 1月も目標達成し、ゴミ排出量も全体でみると減っていますが、2階事務室のゴミ原単位の増加が少し複になりました。まだ見えそうなものはリコースしたり、詰め替え商品を購入する等、一人一人の取り組みが大きな力となります☆引き続きご協力よろしくお願いします。

EA21 (3月度) コピー用紙使用削減

取り組み結果

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
60	20	40	40	40	35	35	40	40	30	35	30

コメント: 2月度も目標達成済み!! 3月度も目標達成済み!!

廃棄物啓発活動

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

浄化確認調査

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
処理後土壌発生量(t)	11,947 t	17,685 t	19,107 t	12,128 t	15,844 t	17,628 t	16,671 t	16,874 t	15,558 t	15,031 t	15,549 t	17,409 t	191,430 t
浄化確認調査回数	105回	126回	161回	105回	141回	152回	149回	145回	127回	135回	138回	158回	1,642回
土量/回数(t/回)	114 t/回	140 t/回	119 t/回	116 t/回	112 t/回	116 t/回	112 t/回	116 t/回	123 t/回	111 t/回	113 t/回	110 t/回	117 t/回
基準値超過回数	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
適正な再処理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

実施内容	評価
①浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査の頻度が適正であることを確認する。	○
②浄化確認調査の結果が基準値を超過した件数を把握し、当該土壌を適正に再処理されたことを確認する。	○

担当者のコメント
<p>浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査し、全て100m³=180t以内に1回の頻度で適正処理することができた。</p> <p>教育等を通じて認識を高め、引き続き適正な浄化確認調査の頻度を維持する。</p> <p>また、極力基準超過とならないよう原土壌の汚染状態および処理状況を監視し、状況に応じ、薬品添加量の調整等を実施する。基準超過が発生した場合は、適正に再処理を実施し、最終的に再処理が完了できたことを確認していく。</p>

環境活動の実施

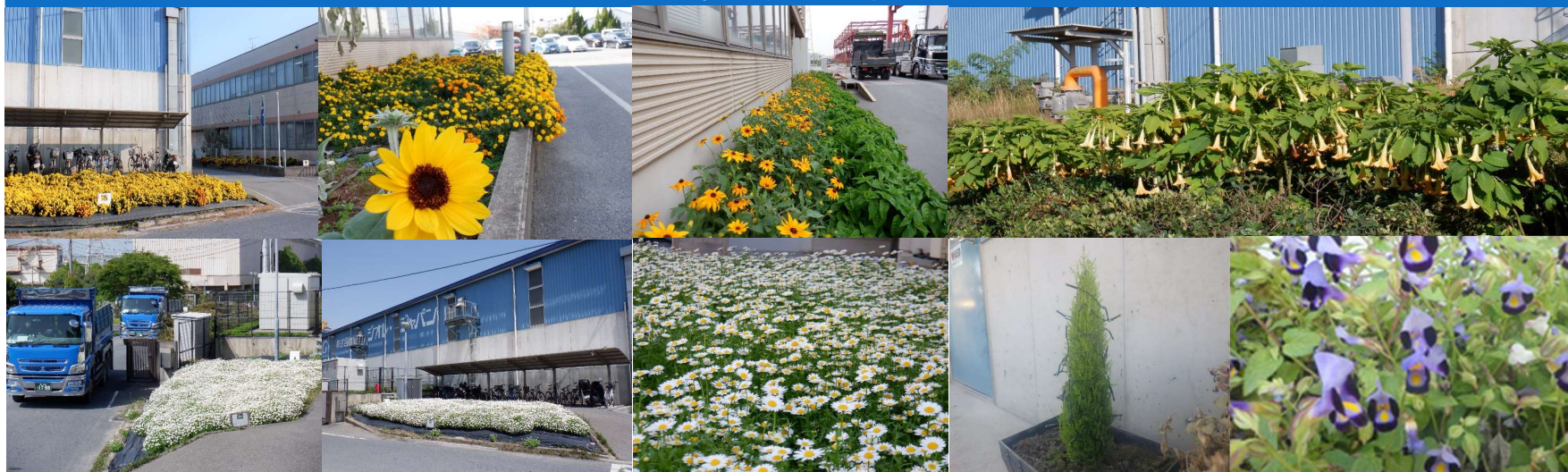
実施内容	評価
① 花壇の整備活動 (種まき、耕作、施肥、植付、水やり、伐根)	○
② 清掃活動を通じて、作業環境及び周辺地域の美化に努める。	○
③ プラント設備周辺にプランターを設置。緑の活動を通じて、作業環境の改善を図る。	○

担当者のコメント
<p>本社屋前花壇、自転車置き場前花壇に夏はひまわりとマリーゴールドを春はノースポールを美しく開花させ、来場者や従業員の癒しとなるよう美観を保つことができた。</p> <p>毎月、構内の清掃活動を行い、班毎にプランターを設置し、緑の活動をプラント課員全員で取り組み、環境に配慮した活動ができた。</p>

構内清掃活動



みどりの活動



環境活動

ジオレ・ジャパンでは、CO₂排出量を抑制すべく様々な取組みを行っています。
化石燃料使用量や電気使用量等の記録保管はもちろんのこと、それらのデータを参照し、削減に向けて、従業員が個々でも実践しています。

一人一人が意識をしっかりと持つことで、少しでも多くのCO₂排出量が削減できるよう取り組んでいます。



節電

節電を実施することで、CO₂排出量を抑制しています。
電源近くに節電ステッカーの掲示や毎月、電気やエアコンの切り忘れがないかパトロールを行い、従業員の節電に対する意識を高めています。



エコドライブ推進

社有車や重機のエコドライブを推進することで、化石燃料の使用量を削減し、CO₂排出量の抑制に繋がっています。
運転日報に啓発ステッカーを貼付することで、従業員にゆとりを持った運転を心掛けるようにしています。



節水

蛇口の閉め忘れを防止するために、掲示をしています。
水道は私生活や職場生活で必要不可欠ですが、抑制できるところは抑制することで、必要最低限の資源の活用に繋がっています。



みどりの活動

みどりの活動では、従業員が花を育てています。四季に応じた植物を花壇に植え、成長の過程をみんなで眺めています。
この活動を通して、緑の大切さを学び、環境への意識を高めています。

美化活動

ジオレ・ジャパンでは、月に1回プラント課員による施設内の清掃活動と年2回、本社・末広工場周辺の清掃活動を実施し、作業場及び周辺の美化に努めています。

美化活動を通じて、地域の方々との交流や従業員の環境保全に対する意識づけを行い、環境改善を推進しております。

冷却装置下



PCBタンク



本社工場前構外清掃



処理土壌ヤード



プラント用水水槽



末広工場前構外清掃



教育・訓練

ジオレ・ジャパンでは年間計画に基づき計33項目の教育・訓練を実施しています。

教育講習では、従業員が講師を務めることで、教える側は資料集めやテキスト作成を行い知識が豊富になり、受ける側は身近な人が講師を務めるおかげで内容が入りやすく、また気軽に質疑応答もできるため、両者の育成に繋がっています。

訓練では作業手順書や防災道具を使用した内容となっており、緊急時に迅速に対応できるようになっています。

部署		教育項目	部署		教育項目
1	総務課	庄下川水路流出油対策訓練	17	プラント課	土壌投入業務配置時重機教育
2	総務課	エコアクション活動周知（EA21認識教育）	18	プラント課	エコアクション21への取組み内容の一部共有
3	総務課	消防訓練	19	技術課	重機・土壌運搬車両の油類漏洩時の対応訓練
4	総務課	入社時説明	20	技術課	車両運搬中における汚染土壌流出時の対応訓練
5	総務課	新入社員に対する自己申告シートの説明会	21	技術課	重機・車両の燃費使用量削減による二酸化炭素の排出量を削減する取組みについて
6	プラント課	地震・津波・台風被害を想定した避難訓練	22	技術課	土排出する産業廃棄物の処理を適正に管理する取組みについて
7	プラント課	停電時の対応訓練	23	企画開発課	土壌汚染対策法に係る周知説明会
8	プラント課	PCB廃油の漏洩時緊急対応訓練	24	企画開発課	土壌汚染調査技術管理者試験対策講習
9	プラント課	高圧ガス漏れを想定した緊急手順の教育	25	企画開発課	CSCC主催 土壌汚染対策セミナー
10	プラント課	薬剤・薬液の取扱いに関わる教育	26	企画開発課	土壌汚染調査・対策・処理等に係る各種勉強会
11	プラント課	汚染土壌の流出に関する、緊急時対応訓練	27	品質管理課	土壌汚染対策法に基づく浄化確認調査に係る教育
12	プラント課	洗浄用水の流出に関する、緊急時対応訓練	28	品質管理課	各法令等に基づく環境測定等の実施および官公庁への結果の報告に係る教育
13	プラント課	排ガス濃度の維持管理に関する、設備教育	29	品質管理課	省エネ法等に基づく定期報告内容等に係る教育
14	プラント課	グラウンドパッキン入替実施教育	30	品質管理課	汚染土壌の処理技術に係る教育
15	プラント課	磨鋸機・砂利洗浄機共通受けローラー・ローラー軸受け更新教育	31	品質管理課	分析室内作業における使用薬品および関連法令に係る教育
16	プラント課	ゴミ取り機本体チェーン更新教育	32	品質管理課	廃棄物処理法に係る周知説明会
			33	品質管理課	危険予知トレーニング（KYT）

教育・訓練

講習 (2022年4月~2023年3月の期間中に実施)



土壌汚染対策や廃棄物に関する講習や緊急時の対応、様々な講習会を計画的に実施しています。全従業員が各講習で得た知識を現場で活かそうと真剣に聴講している姿が見られます。

避難訓練 (2022年9月15日に実施)



地震や火災といった災害時に迅速に避難が行えるように、避難訓練を実施しています。また、海が近いことから津波を想定した訓練も行い、緊急事態に備えています。

消防訓練 (2023年3月28日に実施)



場内での火災を想定し、訓練用の水消火器で消火訓練を実施しています。一人一人が実際に訓練を受けることで防災意識を高め、火災発生時の初期消火の要領を学ぶことができます。

緊急時対応訓練 (2023年3月2日に実施)



現場（プラント）では災害や停電、高圧ガス漏れやPCB廃油漏洩等の緊急事態が発生した際の二次災害を防ぐことを目的とした緊急時対応訓練を実施しています。

10.大栄環境グループの取組み

グループの概要/廃棄物処理・リサイクル事業拠点

大栄環境グループの概要

2023年4月末時点

従業員数※
(臨時雇用者含む) 2,601人
専属協力会社
従事者数 725人
合計従事者数 3,326人

組織構成

大栄環境(株)

■ 連結子会社 30社

三重中央開発(株)	DINS関西(株)	株共同土木	株ジオレ・ジャパン
株摂津清運	株セーフティーアイランド	京都かんきょう(株)	株神戸ポートリサイクル
大栄アメント(株)	株摂津	株クリーンステージ	三基開発(株)
株総合農林	資源循環システムズ(株)	近江八幡エコサービス(株)	株クリエイトナビ
株グリーンアローズ関西	株ソフトウェア トータルサービス	株丸与商店	株ディンズ環境 分析センター
株芦屋浄水	株アイエスブイ・ジャパン	株大栄環境総研	DINS北海道(株)
株ブラファクトリー	株東北エコクリーン	DINSみらい(株)	忠岡エコサービス(株)
農事組合法人ねぎぼーず	農事組合法人榎の里		

廃棄物処理・資源循環等事業拠点

大栄環境 および 連結子会社保有	■再資源化施設等	30ヵ所
	■その他事業拠点	17ヵ所
	■営業所	13ヵ所
持分法適用 関連会社保有	■再資源化施設等	2ヵ所
	■その他事業拠点	3ヵ所
持分法非適用 関連会社保有	■再資源化施設等	1ヵ所
	■その他事業拠点	6ヵ所



10.大栄環境グループの取組み

環境ラリー

大栄環境グループでは、全員参加型の環境活動で、環境に関する様々な取組目標を設定し、実施状況をポイント化することにより、誰でも無理なく取組める環境活動となっております。

また、取組項目はSDGsの17個の目標を組み合わせたものとなっており、環境ラリーに取組むことで、環境に興味・関心を持ち、自発的に環境活動に参加してもらうことを狙いとしています。

【2022年度実績】

（前年比）			（前年比）		
4月	13.0点	131.3%	10月	12.5点	107.8%
5月	12.1点	118.6%	11月	12.6点	108.6%
6月	12.3点	116.0%	12月	12.6点	107.7%
7月	12.5点	112.6%	1月	12.6点	108.6%
8月	12.5点	110.6%	2月	12.6点	107.7%
9月	12.5点	109.6%	3月	12.6点	107.7%

環境ラリー 2020→2030		目標：統一項目8点以上	
	項目	備考	点数
1	環境川柳の提出	提出首数に関わらず	1点
2	支援に繋がる寄付・募金を行う ～できることから始めよう～	点数、金額、回数に関わらず	1点
3	食品ロスの撲滅 エシカル消費の促進	①消費期限の近づいた値引き商品を購入 or ②「認証マーク」付や「エシカル商品」の購入	1点
4	感染症対策を公私問わず徹底している	職場・自宅での手洗いやうがい、 出時マスク、ソーシャルディスタンス等	外 1点
5	環境クイズに答える (環境レターに掲載)	毎月出されるクイズに回答 答え	1点
6	ジェンダー平等を自分事に	ジェンダー記事を探し、紹介・伝達(公私問わず)	1点
7	海や川を汚さない	汚れた水(液体)を流さない 回数に関わらず	1点
8	公私問わず、「脱化石燃料車」の習慣化	公共交通機関の利用、自転車、徒歩等	1点
9	ノー残業デー終業より15分以内に退社 (複数でも1点/月)	～好きなことをして過ごそう～ 日付	日付 1点
10	大栄環境Gr. で働くことが「GOAL 9」に繋 がっている認識をする(全員 1点)	私の業務内容は 【 】 です	1点
11	回収物(ペットボトルキャップおよびアルミ缶) の提出	ペットボトルキャップ(1個以上) アルミ缶(1個以上)	1点 1点
12	地域貢献	清掃イベント等に参加(回数に関わらず) 地域の農産物などを購入(自家製含む)	1点 1点
13	プラスチック製品を断る または 詰め替え用品の使用	回数に関わらず	1点
14	みどりの活動への参加(花壇の手入れ)	回数に関わらず	1点
グループ統一項目 合計得点記入欄(No.1～No.14までの合計点)			
15	ブルタブの回収運動で車椅子を提供	ブルタブ(アルミ・スチール) 回数に関わらず	1点
16	マイボトルの持参でペットボトル製品の 利用を控える	回数に関わらず	1点
17	マイ箸の利用でゴミの削減に繋げる	回数に関わらず	1点

10.大栄環境グループの取り組み

環境レター

大栄環境グループの各事業所が持ち回りで環境レターを作成し、グループの全従業員に内容を周知することにより、グループ全体の環境への意識向上を目指しております。

また、毎月環境クイズを出題し、従業員一人一人が考えることで、環境への知識向上も目指しております。

ペットボトルキャップ・アルミ缶の提出

環境ラリーの取り組み項目のひとつとして、ペットボトルキャップとアルミ缶の回収を積極的に行っています。ペットボトルキャップは原材料として購入することで世界の子供達にワクチンを届けることに繋げております。アルミ缶は回収した金額を全額寄付することで地域の発展に役立てています。

【2022年度回収実績】

アルミ缶	10.45kg
ペットボトルキャップ	5.10kg



環境レター10月

発行日:2021/10/1
No.277

原稿:ジオレ・ジャパン

世界食糧デー



1945年10月16日に国連食糧農業機関(FAO)が創設されたことを記念し、毎年10月16日は、世界の食料問題を考える日として、国連により1981年から「世界食糧デー」として定められています。

これは、飢餓に苦しむ人々、全ての人々に健康的な食事を確保する必要性について、世界的な意識喚起と行動を促す国連の記念日であり、世界の一人一人が協力し合い、世界に広がる栄養不良、飢餓、極度の貧困を解決していくことを目的としたものです。



世界の食料事情



「世界の食料安全保障と栄養の現状」によると栄養失調状態にある人口は過去5年間にわたり実質的に横ばいでしたが、新型コロナウイルスの感染症の大流行により、2020年は約7億6,800万人と2019年比で約1億1,800万人増加し、世界人口の10%まで膨らんでいます。

現在の傾向が続けば2030年までに飢餓をゼロにするというSDGs目標の達成も難しくなることから、我々でもできる支援を行っていく必要があると考えられます。

10月の環境川柳のお題もこのテーマですので、みんなで考えたいですね。

また、寄付も支援の選択肢の一つです。下記リンクの財団はカード決済での寄付も可能です。

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

<https://www.hungerfree.net/join/>

10月の環境クイズ

我々でもできる取り組みに、食品ロスを無くして、食糧難の国にも行き届くよう努めたいと思いますが、日本での年間の食品ロスはどれだけあるでしょうか？

- A: 512万t
- B: 612万t
- C: 712万t



9月の環境クイズの答え

C: 中国

人権侵害問題は日本とは遠い話と感ずるかもしれませんが、ユニクロや無印良品などの商品を通してアナタにも関わりがあります。アナタがエシカル消費を心がける事で、世界が一步平和に近づきます。

◎ジオレ・ジャパンからのお知らせ
エコアクション21の登録審査があり、認証・登録の審査結果をいただきました。準備にあたり、ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

代表者による全体評価と見直し結果

平素は、皆様方からの格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は搬入量増加に対する柔軟な対応が求められる中、大きな事故もなく取組んでいるのは、全員で課題を共有し解決策を模索し、すぐに対処できる体制になっているからだと感じています。

また、美化・緑化活動や環境ラリーなどの取組みがグループ内で取り上げられる機会も増えており、ジオレの取組が認知されてきています。

今後も従業員が一体となり、すべての方々により良いご報告ができるよう、環境経営活動を推進してまいります。

代表取締役
柴垣 雄一



美しい地球を未来へ

株式会社ジオレ・ジャパン

兵庫県尼崎市東浜町1-1

TEL 06-6411-3690

FAX 06-6411-3225